

# Archive&Report

Program

## #2

&lt;ゆさぶる、つなぐ&gt;

10.14(土) 9:00-15:00

## 大人のなべっこ遠足

北島弘宇(北宇商店)

石倉敏明(人類学者・秋田公立美術大学准教授)

レポート

通期受講生 原田萌々

AKIBIplus五城目の第2回目のプログラムのテーマは「大人のなべっこ遠足」。なべっこ遠足とは主に小学校で行う伝統行事であり、少人数の班に分かれ、屋外で鍋料理を作る全学年が参加する課外授業のことです。今回のプロジェクトでは、様々な年代の方々と行うことで、なべっこ遠足の新たな魅力に気がつくことができました。



朝市での買い出しの作業から始まったなべっこ遠足。食材集めが終わると雀館公園へ移動し、鍋づくりがスタート。班ごとに声を掛け合いながら材料を切ったり、具材を煮込んだりと楽しく作業ができました。班のメンバーで試行錯誤を繰り返し、できあがった鍋を頬張った瞬間、達成感を味わいました。



# Archive&Report

Program

## #2

&lt;ゆさぶる、つなぐ&gt;

10.14 (土) 9:00-15:00

## 大人のなべっこ遠足

北島弘宇 (北宇商店)

石倉敏明 (人類学者・秋田公立美術大学准教授)

レポート

通期受講生 原田萌々

鍋底が見えるまでべろりと完食し終わると、北宇商店の北島さんを交えたレクチャーが始まりました。なべっこ遠足が始まった年は正確には不明ですが、北島さんが小学生の頃、今から40年前くらいにはすでに行われていたそうです。想像以上に長いなべっこ遠足の歴史に驚くとともに、私はここまで受け継がれてきたなべっこ遠足の存在意義について考えました。レクチャー中の多様な意見を聞くうちに、それは子どもにとって大切な行事なのではないかと感じました。子どもたちはなべっこ遠足を通して、協力して1つの鍋を作るという協調性、自分に与えられた役割を果たすという責任感、他の班とは違うオリジナルの鍋を作ろうとする創造性を育てることができます。また今回取り組んだ、「朝市だけの食材集め」は地産地消であり、地域の食文化や郷土料理にも触れられる良い方法だと感じました。



プロジェクトを通して、私自身なべっこ遠足の歴史の長さや意義について初めて知ることができました。また、なべっこ遠足は人と人とをうまく繋ぐことができるツールだと感じました。地元の子もたちが地域のあたたかさについて実感できる、貴重な伝統行事「なべっこ遠足」は今後も残していくべきだと思います。